

「あじさいネット」を利用した 地域連携による医療の質の向上

はじめに

あじさいネットは患者の同意を前提として、拠点病院の診療情報をかかりつけ医療機関で利用できるサービスで、2012年10月の佐世保地区への展開により長崎県全域の主たる拠点病院の情報が利用可能となった。このあじさいネットは地域医療IT連携の先進システムとして全国的に注目されており、多くの医療関係者等が見学に訪れている。

ここでは、あじさいネットの概要とあじさいネットを利用した地域連携による医療の質の向上等について紹介したい。

1. あじさいネットの目的

「NPO法人長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会」（通称：あじさいネット、以下同）は、県内の拠点となる総合病院での診療情報（検査結果、放射線画像、診断、治療内容、薬剤情報、説明内容等）を患者の同意を得たうえで、かかりつけ診療所等の参加医療機関が堅牢な暗号化されたネットワーク上で閲覧して診療に反映させ、安全で高品質な医療を行うことにより地域医療の質が向上することを目指している。

2. あじさいネットの概要

2003年5月に独立行政法人国立病院機構長崎医療センター（以下、国立長崎医療センター）のある大村市で、大村市医師会、国立長崎医療センター、市立大村市民病院の3者による「地域医療連携IT化検討委員会」が発足し、地域全体のネットワークを構築し医療の質を上げることをコンセプトとして地域医療連携IT化の検討が開始された。

当時国立長崎医療センターは電子カルテ導入検討をしていたところであり、この電子カルテ情報を地域で共有することが地域医療連携IT化検討委員会で検討されることとなった。その結果、国立長崎医療センターの電子カルテ情報を大村地区の31医療機関を対象にネットワークを通じて公開することが決まり、「あじさいネット」として2004年11月に稼働開始した。

その後、2009年に長崎市医師会が加わるなど着実に拡大し、2012年10月から佐世保エリアで運用が開始されたことで長崎県域がほぼ網羅され、全国最大規模のネットワークになっている。現在では情報提供を行う拠点病院が17施設、情報閲覧等を行う診療所・薬局等が176施設、登録患者数は25千人を超えている（2013年3月12日現在）。なお、長崎県五島中央病院および長崎労災病院でも運用準備中。

* あじさいネットの情報提供医療機関（拠点病院）（2013年3月12日現在）*

県 央	国立長崎医療センター、市立大村市民病院、国立長崎川棚医療センター
長 崎	光晴会病院、十善会病院、長崎大学病院、長崎市立市民病院、日赤長崎原爆病院、済生会長崎病院、聖フランシスコ病院、井上病院、長崎記念病院、長崎北病院
五 島	長崎県上五島病院、（長崎県五島中央病院：運用準備中）
佐世保	佐世保市立総合病院、佐世保中央病院、佐世保共済病院、（長崎労災病院（佐世保市）：運用準備中）

3. あじさいネットの利用手順（図1・2）

利用手順は次のようになっており、患者が同意書を提出しているかかりつけ医・薬局等にて対象患者の医療情報が閲覧できる。

- ①かかりつけ医があじさいネットの内容等を患者に説明し、同意書を提出してもらう。
- ②かかりつけ医はその同意書を閲覧したい拠点病院の地域連携室へFAX送信する。
- ③地域連携室では、かかりつけ医の該当患者に対するアクセス権を設定し、登録終了のFAXをかかりつけ医へ送信する。
- ④かかりつけ医の診療所から拠点病院の電子カ

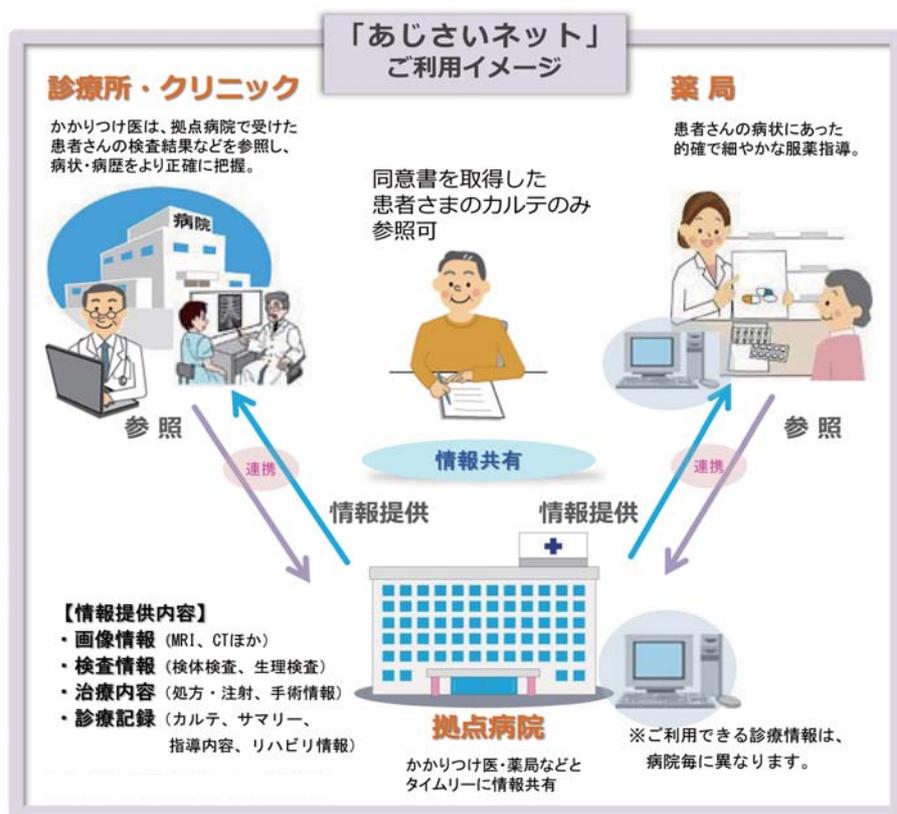


図1（資料提供：あじさいネット事務局）

ルテ等をインターネットで閲覧する。(複数の拠点病院に同意書を提出することで複数の電子カルテ等が、かかりつけ医のパソコンで閲覧が可能。)



4. あじさいネット利用のメリット

あじさいネットを利用することで次のようなメリットがある。

- ①拠点病院での画像などの検査結果や服用している薬・治療内容等が、かかりつけ医の診療所でも分かる。
- ②拠点病院に患者が入院している間であっても、かかりつけ医がその治療経過を閲覧できる。これにより、退院後のかかりつけ医での外来受診時に、かかりつけ医が入院時の状況を把握していることで患者は安心できる。
- ③かかりつけ医は情報提供側の拠点病院の医師と「あじさいネット」を閲覧しながらディスカッションが可能となる。
- ④あじさいネットには薬局も参加しており、従来薬局では処方箋のみをみて服薬指導を行っていたが、薬剤師が患者の病状や病歴をみることで、よりの確で細やかな服薬指導が可能となる。

5. あじさいネットが地域医療にもたらす効果

地域医療におけるあじさいネットの効果は以下のような5つが挙げられる。

- ①あじさいネット利用によって、診療所と拠点病院との連携が強まる。また、患者は拠点病院のサポートも受けながら診療所で治療ができることから、患者にとっては切れ目のない医療が受けられるうえ、かかりつけ医との信頼関係もよりいっそう強くなる。
- ②各診療所は拠点病院で診療に用いている患者の画像情報をインターネットで利用できるため、

離れた場所にある診療所においてもそのデータ等を利用した診療が可能となる。(診療所は高度医療機器を備えていなくても拠点病院でのデータを活用できる。)

- ③地域における医療機器整備の重複や検査の無駄を省く可能性も考えられる。
- ④拠点病院での診療の全過程を診療所でも正確に把握でき、日進月歩の最先端医療をより具体的にタイムリーに知ることができ、その教育的効果も大きいと考えられる。(医療従事者の有効な生涯教育支援機能となる。)
- ⑤診療記録の参照は、特に難治性疾患や生活習慣病等の慢性疾患に対してきめ細かい診療が可能となるため、病院完結型から地域完結型医療への移行が進められているなか、そのメリットは極めて大きいと考えられる。

以上のように、あじさいネットは多くの地域医療を担っている診療所等の医師が利用することで、地域医療の質の向上につながるツールになると考えられる。

6. あじさいネットの運営費用等

事業の継続のためには運用・保守等が必要であるが、補助金なしで運営する方式をとっている。情報閲覧側であるかかりつけ医療機関は、初年度に入会金5万円、システムの初期設定費用30,000円を負担し、利用料として月額使用料4,000円、ウイルス対策ライセンス料年間3,000円を支払う。ただし、医師会単位で一括入会金200万円を支払うことで、個々の会員の入会金5万円は不要となっている。

また、情報提供側の中核病院については、専用ゲートウェイサーバー導入費用が800~1400万円、入会金・会費は無料、ネットワーク機器・保守月額18,000円となっている。

なお、患者は利用の同意書を提出するだけで利用料金の負担はない。

7. あじさいネットのセキュリティー

あじさいネットではセキュリティー面には特に注力しており、次のような対策を講じている。

- ①あじさいネットはインターネットを使うため、オンデマンド接続サービス利用による施設間暗号通信を採用し、医療に特化した高セキュリティネットワークで情報を共有する体制となっている。
- ②専用ID&パスワードを使って利用する仕組みで、その定期更新を義務付けており、自動失効する仕組みも採り入れている。

- ③あじさいネットへ新規入会する医師のID&パスワード発行には、必ず1時間程度の運用講習会を義務付けており、正しい利用法とセキュリティ教育を行っている。

8. 今後の展開について

これまでみてきたように、あじさいネットがシステムとして確立したことから、その基盤を活かした新たな医療サービスの検討も始まっている。

①在宅医療へのあじさいネットの利用

在宅医療では、医師だけでなく訪問看護師やケアマネージャー、介護士とも密接な連携が必要となるため、これらのスタッフの参加が欠かせないと思われる。訪問看護の現場において、モバイル端末で患部等を写真に撮って病院の医師に送信し、医師は入院が必要かどうかなどを判断し指示等を与えることが可能になると考えられている。

②遠隔医療などの新たなサービスへの活用

県内の郡市医師会を結ぶテレビ会議システム、離島・へき地医療支援システムや高品質遠隔撮画像診断システム、周産期管理・小児発育支援システム、がん検診システム、など様々な医療に特化したサービスも考えられている。

おわりに

前述の「5. あじさいネットが地域医療にもたらす効果」のとおり、あじさいネットを多くの医療機関が利用して診療に反映させ高品質な医療を行うことは、地域医療の質の向上につながると考えられる。また、病院完結型医療から地域完結型医療へ移行していくためには十分な情報連携が不可欠と考えられるが、あじさいネットはその情報連携に役立つシステムであると考えられる。

今後、あじさいネットを利用する診療所等が拡大し、地域医療において質の高い医療をより多くの患者が受けられるようになることを期待したい。

(上村 秀明)

あじさいネットのお問い合わせ先

【NPO法人長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会事務局（長崎県医師会内）

電話095-844-1111】

（「あじさいネット」のホームページ：<http://www.ajisai-net.org/ajisai/index.htm>）